

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276600119		
法人名	有限会社 ヤシマ		
事業所名	グループホームハートライフ一宮		
所在地	千葉県長生郡一宮町船頭給230-5		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://hrt-life.com/guidance.html">http://hrt-life.com/guidance.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成30年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活に重点を置いたホームの運営を目指しており、家庭の延長といったホーム作りを目指しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域と共に生きるという本来の趣旨から、当施設では外部との接触を重視した活動をしている。民生委員が中心となって船頭給公民館で月1回開催される「ごじゃ処」へ参加し、健康体操、サーフィン音頭を楽しむと共に認知症予防ともなる指の体操も参加された方たちにとっては、憩いの場でもありくつろぎの時間を過ごすことにもなっている。また、昨年、通りを挟んだ前に開設した特別養護老人ホームとの交流も深まり、災害発生時の一時的避難の場所としての提供を受けることにもなっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている。 家族の協力を得ながらご本人が生活しやすい環境づくりを行っています。	事業所の理念と施設独自の方針を誰もが分かるように玄関の正面に掲げ、確認できるようにしている。月1回開催されるユニット会議では、ホーム長から具体的に説明し職員の理解を得るようにしている。理念の実践として重視している点は、この施設が家庭の延長であって終いの我が家と感ずるよう支援している事である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育園児の訪問、同法人内のデイサービスに来てくれているボランティアさんとの交流など、利用者と共に参加している。	年に1回の敬老会には近隣の「愛光保育園」より20人程の園児が訪れ、利用者と一緒に歌や踊りを楽しんでいる。ボランティアとして青色申告会の方が踊りや太鼓を披露して頂くのも楽しみ一つとなっている。その他、月1回自治会を中心に開かれる「ごじゃ処」に参加し、指の体操、健康体操、サーフィン音頭にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。 地域貢献の機会や場を設けられていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3カ月に1回実施し、サービス向上に活かしている。	以前は家族の都合もあり土・日曜日の開催であったが、平日に変更したことで家族の集まりが少なくなっている。区長、民生委員、家族が主な参加メンバーであるが、社会福祉協議会や同じ敷地内のグループであるデイサービスからの利用者が参加されることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の交換・共有を図り、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	福祉健康課には週1回程度訪問し馴染みともなっており、空き室が生じた時など利用者の紹介もある。また、役場から感染症等の情報が必ず週1回は電子メールで送られてきており、行政との情報交換は密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や社内の勉強会等を行い実践している。	この地域で構成されている地域密着型外房連絡会に加盟しており、月に1回長生村文化会館で研修が開かれている。施設からも参加しており、身体拘束に関する研修もあり、研修後はユニット会議で内部研修を行い、職員間で認識を新たにすることになっている。最近、「ちょっと待って」という言葉が身体拘束に繋がるということで、声掛けにも注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や外部の研修等を通じて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	成年後見人制度を利用した入居者もあり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や電話連絡の際に機会を作り、意見や要望を伺うなどして運営に取り入れる様にしている。	入居前のアセスメントで家族からの意見に、「畑いじりが好き、歩行は困難だが花がとても好き」といった好みを聞くことが多い。その人達には近くの畑でのお手伝い、或いはプランターに花を植えたりといった利用者の持つ思いに応えるよう努力をしている。編み物の好きな方には家族から提供頂いた毛糸を使って、ホールで使う鍋敷きやペットボトル入れを作ってもらったり、一人ひとりの持つ趣味や特技を活かす支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と話す機会を作り、お互いの理解の上に運営するように心掛けている。	職員から活発な意見が出るのは、特に月1回のユニット会議の場である。日常生活の改善点に関しては身近な問題でもあるし、的確な意見具申もあり取り入れるようにしている。ホーム長が即断できなければ、社長に直ぐに申請をし時間を置かず何らかの回答が出来るようにしている。ウッドデッキの修理は費用がかなり掛かり、社長判断を得て早目の修理ができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になる様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣にて開催される外部研修へ積極的に参加する様促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	どこの施設も職員不足で、中々交流する機会が作れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をして、アセスメントを行い、管理者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をして、アセスメントを行い、管理者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人・ご家族と話をして、何を望まれているのかをよく確認した上で、必要であれば他のサービスの紹介も含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の動作の中で、出来る事はして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子観察の中で、必要に応じホーム側より連絡し、来訪の機会作りを促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に来られる環境作りに努めている。	入居前の関わりを絶って入って来られる方以外は、極力訪問して頂くように働きかけている。クリスチャンの方で、毎週牧師が訪問され居室内で話をされて帰られる例もあり、その方は心の安定と共に昔からの馴染みの来訪をいつも心待ちにされている様である。職員は来訪者には居室に通しお茶を差し上げ、ゆっくりしてもらおうような配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事によって、孤立しない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会を作り、退居後の様子伺いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や筆談の中で、ご本人の思いを汲み取り、支援出来る様努めている。	おおよそ半数位の利用者はご自身の思いや意向を何らかの形で表現されている。言葉にしにくい方からは表情や態度から汲み取ることが有るが、入所前に同居されてた家族が少ない為、家族よりも本人の思いや意向を優先することが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間での情報の共有を図り、今までと変わらない生活が出来る様に環境づくりを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、様子観察で把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族を含めた中でのカンファレンスを行うようにしている。また、必要に応じ、ミニカンファを行っている。	入所時のケアプランは短期間で見直しするケースが多いが、ホームに慣れて落ち着いてくると3ヶ月に1回の見直しを行っている。入所当時のアセスメント、日常のケア記録からモニタリングを経て状態の把握を行い、家族・職員・ケアマネでの担当者会議を行いケアプランの内容を決めていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録を残し、全員が把握出来る様にしている。問題等が起これば、その都度カンファレンスやミニカンファを行い、対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望に対して、別途場を作り対応する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する機会は少ないが、地域資源の把握はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人に対する医療ニーズを、ご本人・ご家族と話し合い納得の上でかかりつけ医を決めて頂いている。	内科は月に2回ユニット毎に日を分けて地元の藤島クリニックから往診、口腔ケアは週1回、市原歯科に歯科衛生士さんとの連携で指導して頂く。整形外科、眼科等は家族に付き添いをお願いしており、通院メモを媒体にして情報共有を行っている。血液検査を年2回実施し、認定更新の際には身長・体重計測も行う。今後はリハビリも検討中。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は利用出来ていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、面会時に先生や看護師から状況の説明をして頂き、状況の把握を職員全員が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の現在の状況はご家族の電話や来訪時に伝達・報告しており、必要に応じ今後の方向について話し合いの場を設けている。必要に応じ主治医からもご家族にお話しをしていただいている。	重度化、終末期を迎える利用者については、老衰の場合はどこまで対応するか、医療ケアが必要な場合は入院とか、ケースにより家族とは常に確認を取りながら対応を行っている。看取りまで行うには職員の教育対応レベルが違うので難しく、現在は行っておらず特に家族との契約も行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成を行い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っており、災害時の対応に備えている。	年2回の訓練では、幾つかのケースを想定して、避難誘導、通報、消火の訓練を行っている。町の主催で行う洪水や、地震を想定した訓練にも参加しており、消火器の使い方等の指導も受ける。非常用食料、水の備蓄、利用者毎には1週間分の薬も用意してある。	地理的な要因から大型地震や津波の発生時に備え、避難誘導等の訓練はしっかりと行う事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けや対応を行っている。	利用者、職員共に10年以上と長い方もあり、本人の尊厳やプライバシーを無視した対応については注意を払っている。又、トイレ誘導の声掛けなどはさり気なく行うようにはしているが、自分から行かれる方が半分位ある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を工夫し、結果を職員の間で情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が全ての希望に添って過ごすまでには、なかなか出来ないが、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んで着て頂いたり、女性には化粧等をされ、楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の話を聞きながら決めるように努めている。生活レクの中で食事の準備や後片付けを一緒にして頂いている。	利用者の希望を取り入れた献立は1週間分はほぼ決まっている。食材の買い出しも一緒に行き、調理も味見まではやって頂ける。女性の利用者は男性に対しては不安感を持っていて、男性利用者は手伝いに徹するケースが多い。最近外食は少なくなってきており、お花見などには、手作り弁当持参で出かけるケースもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りや介助の中、食後に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。特に日中はオムツの使用をしない様に勤めている。	日中はリハパンとパッドで声掛けによるトイレ誘導、夜間はパッドを大きめのものに変える等工夫し、出来るだけオムツは使わない様に心掛けている。中には、怪我人等一人でトイレ利用が出来ない方についてはオムツを使用している。排泄促進で下剤等はパターンが分からなくなる為使用しない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員が体操や体を動かす運動に参加できるようにしている。また、食物繊維の多い食品を献立に取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は、曜日を決めて入浴を行っており、一人ひとりの希望に添えていない。	週3回、午前、午後とも1日6人位は利用できるようにしている。最近では入浴拒否者も減っては来たが、利用者毎のパターンが掴めているのでうまく対応が出来ている。入浴介助では同姓が行うこととしており、一般浴でも浴槽を跨げない方についてはシャワー浴の対応も行う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見守り、様子観察する中で体調を見て配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の疾病と薬の内容を把握し、間違いが無いよう、服薬時は準備する時と服薬する時に、必ずチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来ることを把握し、日常生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出機会を作れるよう支援している。また、ドライブや散歩に気軽に行ける様に声掛け支援をしている。	月に5～6回は限られた家族だけではあるが一緒に、海・山に車で外出してもらっている。介助が必要な場合は職員も同行する場合もある。日常のお散歩については、事業所の周りを500m位自立歩行出来る方もあり、天気の良い日を選んで実施している。車椅子利用者も職員が押しながら出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則として行っていない。必要時には、ホーム立替により購入している。購入時は、ご本人と一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の協力が得られた所には電話の支援もしている。手紙は書いて頂ければお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月々や季節で飾りつけを変更し、季節感を味わって頂けるよう工夫している。	共用空間では、足元に物を置かない事、動線を確認する事、汚物のゴミ箱は撤去することを心掛けている。リビングでは、月替わりの当番制で職員が飾りつけを行い、季節感を演出している。利用者は「今日は何月何日何曜日」が必ず分かる様に大型の日めくりカレンダーを掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置し、談笑したり一人でゆっくり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ってきて頂く様支援し、ご家族との写真を飾ったり、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室に関しては、家族訪問時に要請されることもあり、希望に沿った飾りつけに対応している。又、外出時の写真や、誕生会の色紙なども部屋に飾っている方も多い。家族からは時に、逆に多すぎて処分を依頼されることもあり、利用者の一人ひとりの希望に合わせた対応を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・わかる事はやって頂き、出来ない事・わからない事は職員がお手伝いして、出来るよう支援している。		